1 香川県高松市（たかまつ）

6次産業化

伝統の継承

中国四国農政局 ディスカバー 農山漁村の宝 選定地区

大野豆（おおのまめ）プロジェクト

～「大野豆」復活と次世代への継承活動～

大野小5年生児童の「大野豆」収穫作業

豆de家庭料理コンテストと受賞料理

経　緯

○大野地区はかつて豆の名産地だったが、時代とともに廃れていった。讃岐長莢空豆（通称「大野豆」）の生産復活を願う有志35名が、休耕田約50aを活用してプロジェクトを開始した。
○販売先の（有）筒井製菓に加え、「まめっ子」と称される地元の児童・生徒も参加し、活動の輪が広がっていった。

取組内容

○夏は大豆・黒豆・小豆を、冬は空豆（一寸及び「大野豆」）を栽培し、年間合計約1.5tを販売。
○広報等で継続的に成果を報告するとともに、大野豆の栽培体験を「大野豆復活物語」や「6次産業化事例」として公開講座や交流会等で発表。
○地元の児童・生徒が豆栽培、豆腐・しょうゆ豆づくりを体験。
○地元産の豆類を使った「豆de家庭料理コンテスト」を実施。

活動の効果

○耕地面積は約70aとなり、伝統ある讃岐の田園風景の復活に貢献できている。
○（有）筒井製菓で製造されている国産の豆菓子「大野豆」（フライビーンズ）は、優れた品質で国産品志向の顧客から高い評価を受けている。
○地元の児童・生徒が地域のことを知り、プロジェクト活動を広げる核となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

プロジェクトを継続しつつ、より若い世代への継承につながるように、「大野豆」の地理的表示保護制度登録を目指します。

高松市香川町大野1329-1　Tel：087-886-1960

② 香川県高松市（たかまつ）

環境保全・景観保全

教育機関との連携

香川県三郎池土地改良区（かがわけんさぶろういけとちかいりょうく）

～多面的機能を有するため池との良好な共存～

クリーンアップ作戦

淡水魚の生態説明会

経　緯

○ゴミの不法投棄や水質の悪化が問題になっていた。
○堤防エリアを公園整備したことや、近傍にある日山の登山道を整備したことで利用者が増え、ゴミ対策と景観保全が課題となった。
○地域住民、児童、高校生などの協力を得て、平成22年からクリーンアップ作戦を展開することにした。

取組内容

○３年に１度、池干しの落水にあわせてクリーンアップ作戦を実施。開始当時は約4トンものゴミを回収した。
○平成25年から、小学生の校外授業として三郎池に住む生物について、淡水魚の専門家を招いて説明会を実施している。
○地元小学校で出前授業を行い、地域外から遠足で訪れる小学生には、ため池の役割等を説明している。

活動の効果

○クリーンアップ作戦により水質改善がみられるようになり、アオコも減少して異臭がなくなった。
○貯水量170万トンを超える三郎池の多面的機能について地域住民の理解が進み、緊急時の避難経路等について三郎池の存在を意識した計画が策定できた。
○池干し時に外来種の生物を駆除することができ、捕獲したスッポンがジャンボタニシの駆除に有効であることが分かった。

応募団体からのアピール・メッセージ

平成22年から続けているクリーンアップ作戦の活動をさらに活発化したい。今後も地域の方と連携して、ため池の重要性をPRしながら適切な維持管理に努めたい。

高松市三谷町2286-3　Tel：087-889-0005

③ 香川県高松市（たかまつ）

農林漁業　6次産業化　耕作放棄地対策

讃岐国分寺あんず事業振興会（さぬきこくぶんじあんずじぎょうしんこうかい）

～ 人集う笑顔あふれるあんずの里づくり～

あんず花祭り

あんずの加工品

経　緯

○増加する休耕地を活用して町おこしをしようと考えていた。
○讃岐国分寺ができた奈良時代に中国から入ってきたとされるあんずに目をつけ、あんずの里として6次産業化ができればと有志29名が会を立ち上げた。

取組内容

○会が中心となってあんずの産地化を推進。町おこし産品として加工や販売に取り組み地域の活性化を図る。
○「あんず花祭り」を開催し、あんずの加工品の紹介と販売を行う。
○栽培技術等の意見交換会を実施。
○道の駅や東京のアンテナショップ、地元の洋菓子店等に果実を出荷。

活動の効果

○メディアに取り上げられ、「あんずの食文化」への関心や認知度の向上に繋がった。
○「あんず花まつり」の来場者は年々増加しており、新商品の販売も好評を得ている。
○地元洋菓子店の（株）シカが、あんずを使用して製造したソフトグミ「瀬戸のめぐみ」が、「かがわ県産品コンクール　知事賞」を受賞。

応募団体からのアピール・メッセージ

高品質なあんずを安定して生産しながら、オンラインショップの開設や収穫体験なども計画し、地域住民と交流しながら「あんずの里のふるさとづくり」を促進していきたい。

高松市国分寺町国分920　Tel：087-874-1127

4 香川県 高松市（たかまつ）

農林漁業　輸出　伝統の継承

「高松盆栽の郷（たかまつぼんさいのさと）」推進協議会（すいしんきょうぎかい）

～高松盆栽を世界へ！！盆栽エクスペリエンス～

高松盆栽デモンストレーション　ライブ配信

拠点施設「高松盆栽の郷」 と 箱盆（和三盆）

経　緯

○国内需要が伸び悩み、価格の低迷等で後継者不足も深刻であったが、逆に海外では盆栽の人気が急速に高まってきていた。
○産地の生き残りをかけて輸出促進・需要拡大に向けた情報発信、担い手育成を行い、地域のブランド化を目指す。

取組内容

○情報発信拠点として観光客等が気軽に立ち寄って見学・体験・購入ができる施設をつくり、ウェブサイトを立ち上げた。
○「高松盆栽学校」や「BONSAI技術研修」、地元小学生への栽培指導等により愛好家の確保や後継者の育成に努める。
○ 「高松盆栽の郷フェスタ」や「盆栽新商品コンテスト」を実施して、知名度向上を図る。

活動の効果

○ 4か国語に対応したウェブサイトには50か国以上からアクセスがあり、世界中から関心を集めている。
○盆栽生産者が栽培管理技術を教える「高松盆栽学校」は、小学生を含む県内外の幅広い世代が受講している。
○実演のライブ配信やオークションなど、オンラインでも楽しめるイベントには多数の参加があった。

応募団体からのアピール・メッセージ

全国でも珍しい松の畑が広がる鬼無町と国分寺町は、松盆栽の全国シェア8割を占めている。今後も盆栽の魅力を「高松盆栽の郷」から国内外にPRしていきたい。

高松市国分寺町国分353-1　Tel:　087-874-2795

5 香川県高松市（たかまつ）

農林漁業、農村文化体験

環境保全・景観保全

伝統の継承

奨励賞

特定非営利活動法人（とくていひえいりかつどうほうじん） 奥塩江交流（おくしおのえこうりゅう）ボランティア協会（きょうかい）

～スローライフを楽しみながら持続可能な社会に貢献～

茶畑の再生作業（楽農人事業）

わら草履の作成（環境フォーラム事業）

経　緯

○かつては木・炭・農産物の供給地や交通の要所として賑わっていたが、過疎化が進み、小・中学校も廃校になって地区の活気が失われた。

○賑わいを取り戻そうと、有志20名が中心となり地区の活性化を目的として2006年に「奥塩江交流ボランティア協会」を設立した。

取組内容

○地元で採れた食材を使った調理・食事会や、様々な分野のゲストを招いたイベントを行う「まんぷく会」を毎月開催している。

○かつて地域で中核的な特産物であった茶の復活のため、「楽農人事業」として耕作放棄地となっていた茶畑を再生した。

○奥塩江地域の特徴を活かして環境保護意識を高める活動の一環として、地域の子供たちとわら草履の作成をしている。

活動の効果

○現在はお茶だけでなく、ソバや野菜の栽培も始め、少しずつ耕作放棄地を減らすことに貢献している。

○中学校跡の木造講堂と大木が残る「モモの広場」に人々が集い、スローライフを楽しむことが、持続可能な社会の実現を目指すボランティア活動の基盤になっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「楽農人事業」が注目されています。農業経験がなくても楽しみとして農業に関わる人が増えることは、環境や暮らし方への意識を高めることにも役立ちます。奥塩江の豊かな自然の中で「のんびり、ゆったり、心ゆたかに」活動しています。

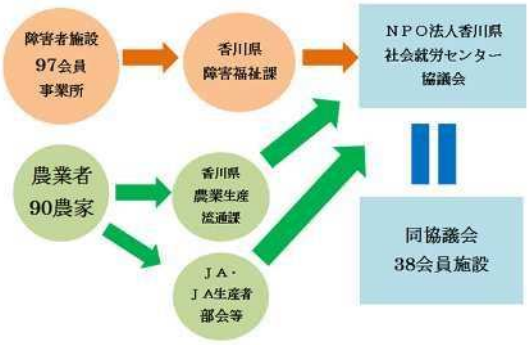
高松市塩江町上西甲77　Tel:080-5665-1614

6 香川県高松市（たかまつ）

雇用　農福連携　高齢者の活躍

特定非営利活動法人（とくていひえいりかつどうほうじん）　香川県社会就労センター協議会（かがわけんしゃかいしゅうろうきょうぎかい）

～障がい者と農業者の架け橋として～



農福連携の体系図

農作業体験会（キャベツの収穫）

経　緯

○農家の高齢化が進み、後継者不足のために作付面積が減少した。
○障がい者福祉施設では、受託作業の減少や自主製品の販売不振から収益が減少し、一人あたりの月平均工賃が1万円台と低迷。
○農福連携によって双方にとってプラスになる取組がスタートした。

取組内容

○平成23年から、NPO法人香川県社会就労センター協議会に「共同受注窓口」を設置し、農作業請負のマッチングを行う。
○障がい者の工賃向上を図るため、作業の種類や量を見直し、工賃の値上げ交渉の実施。
○農作業に参加する障がい者施設を増やすため、現場で細かな支援ができるよう農福連携支援員やジョブコーチを委嘱。

活動の効果

○現在、施設外就労に年間延作業人数約13,600人が参加。
○施設利用者の作業工賃は年々増額。利用者も「やればできる」という体験から働く意欲が湧き、更には、働く姿が認められて一般就労へと進む者も現れた。
○「ノウフク・アワード2020　審査員特別賞」を受賞。

応募団体からのアピール・メッセージ

参加する福祉施設を増やし、継続して農作業に取り組めるように現場で細やかな支援を行っていきたい。また、特別支援学校等の生徒を対象に農作業の体験学習を実施したい。

高松市元山町1193－2　Tel:　087-813-1420

7 香川県丸亀市（まるがめ）

農村文化体験　教育機関との連携　女性の活躍

塩飽部隊（しわくぶたい）

～瀬戸内海の島はSDGsラボ～

京大生と香川本鷹栽培農家による現地指導

プロモーションフィルム制作

経　緯

○手島は周囲10キロ、人口わずか15人で、高齢化率は90%。2016年11月に3人の京大農学部学生と島を訪問。島に生きる人たちの力強さに感銘を受け、塩飽諸島を盛り上げるための活動が必要だという思いを抱く。

○手島を自然循環のモデルアイランドにしようと、島民、京大生、NPO「四国夢中人」によって任意団体「塩飽部隊」を設立。

取組内容

○幻の唐辛子「香川本鷹」の生育過程を実地体験。香川本鷹レシピ集を作成し、香川本鷹カレー試食会を実施。

○離島で初めて竹林伐採を実施し、伐採した竹のチップでカブト虫の幼虫を飼育。

○丸亀養護学校から提供された花の苗を休耕田に植栽し、フェリー乗り場から島の中心部までフラワーロードを形成。

○急激に人口減少する島の歴史や暮らしを後世に残すためにカナダ人YouTuberによる英語版の手島プロモーションフィルム制作。

活動の効果

○様々な分野の若者が交流しながら、島民の要望に沿った取組を実施。これらの活動を英語版YouTubeを通じて国内外に発信することで、メディアにも取り上げられ、「手島」の認知度が高まった。

○春、夏、秋の四季折々の花が島のメイン道路で咲き、島民たちに癒しと賑わいを与えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

島の自然環境を生かしながら、若者たちが教室では得られないアカデミックな体験ができる島づくりを目指してきました。「自然と人との調和」が改めて見直されている今、人類にとって「豊かさ」とは何か、島民の暮らしを取材し、新たな生き方を考察していきます。

丸亀市7番丁71　Tel:　0877-23-7262

8 香川県観音寺市（かんおんじ）

環境保全・景観保全

食育・教育

大野原地域資源保全会（おおのはらちいきしげんほぜんかい）

～環境保全活動で地域住民交流・連携を図る～

親子で協力して草取り清掃

公共エリアに植栽して景観整備

経　緯

○地域の国道、県道沿いで水路や農地に空き缶等の投げ捨てが多く、その対応に苦慮。
○平成26年度より多面的機能支払事業に取り組む。地域の環境保全活動を通して地域住民が交流・連携することを目的に、子供会も含めた清掃作業を行い、地域を守る人間形成を目指す。

取組内容

○地域内にある子供会に呼びかけ、子供達を中心に親子でのゴミ拾いやカーブミラーの清掃等の環境保全活動を実施。
○公共エリアに植栽するなどの景観整備を行う。

活動の効果

○子供達が地域の人々と活動を行うことで顔見知りになり、挨拶ができるようになった。大人もどんな子供が住んでいるのかわかり、声かけするなど防犯上の効果が見られるようになった。
○住民の間に地域を良くしようとする意識が高まった。

応募団体からのアピール・メッセージ

子供の人数が減少している状況ではあるが、地域全体に呼びかけて清掃活動だけでなく公共エリアの景観整備などにも活動を広げ、参加者や親子が相互の信頼を深めて協力しながら住みよい地域環境を整備していきたい。

観音寺市大野原町大野原1368-1　Tel：　0875－54－2035

⑨ 香川県観音寺市（かんおんじ）

農泊 | 伝統の継承 | 里山歩き、地元食材の利用、観光

五郷里づくりの会（ごごうさと かい）

～GOGO五郷！文化は山から降りてくる～

手づくりのピザ石窯・建屋

里山歩き

ミカン狩り体験

経　緯

○人口減少や高齢化が進む中、市町合併による地名の消失や小学校の廃校により地域コミュニティの存続が危ぶまれていた。
○平成23年、地域活性化に寄与するため、活動の母体となる「五郷里づくりの会」が発足。

取組内容

○地域活性化のシンボルとして「五郷水車」を復活させ、「水車米」の精米、そば粉作りなどに活用。
○手づくりのピザ石窯でのピザ作り、そば打ち、ミカン狩り体験等、地元の自然や農産物を活用した各種イベントの開催。
○地区の歴史・地理等を説明しつつ散策し、郷土料理でもてなす5コースの里山歩きツアーを開催。
○HPやSNS、「里づくり新聞」で情報を発信。

活動の効果

○活動が広まるにつれて地域住民の理解が深まって、団結力が一層強まった。
○郷土料理（こもけ団子汁）は多くの方から好評を得ており、ピザ作り、そば打ち、みかん狩り体験等も人気を呼んでいる。
○五郷地区の知名度が上がり、豊稔池などを訪れる人が増えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の自然、産業、食、歴史、文化等の資源を活かし「人が輝く里山づくり」を目指して活動している。　HP：http://gogou.jp/　FB：五郷里づくりの会

観音寺市大野原町井関538－4　Tel：　0875－54－3984

10 香川県観音寺市（かんおんじ）

農林漁業

環境保全・景観保全

食育・教育

油井水土里保全組合（ゆいみどりほぜんくみあい）

～各種団体の連携、協力による農村環境づくり～

アサギマダラの飛来

遊水池の清掃・泥上げ

経　緯

○圃場整備をきっかけとして、高齢化や農地の宅地化に伴う遊休農地の解消と、受け継いできた水資源の維持管理を図るため、「油井水土里保全組合」が発足。
○地域の環境保全には新興住宅地の若い世代の協力が必要であり、地域住民の意識を高めて協力体制をつくることが求められていた。

取組内容

○旧五兵池を公園整備して、桜、藤、梅などを植栽しビオトープを造成。平成29年よりアサギマダラを呼び寄せるためにフジバカマを栽培。
○広庄池、遊水池の堤防にアジサイなどを植栽。水資源の環境保全のため、藻の除去や水路清掃等の保守作業を定期的に行う。
○スポーツ大会や花見、いきいきふれあいサロンなどを通じて三世代交流の活性化を図る。

活動の効果

○昨年秋に初めてアサギマダラの飛来を確認した。
○交流が深まって、自治会、老人会、子供会などの各種団体と連携・協力体制ができ、地域の環境作りに役立っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

老若男女が連携・協力して、この地域を住みよく、楽しく、美しくし、旅をするチョウ「アサギマダラ」が飛び交う憩いの場として、多くの人に訪れてもらいたい。

観音寺市柞田町乙2780－2　Tel:　0875－25－2292

11 香川県さぬき市

6次産業化　耕作放棄地対策　鳥獣被害防止

豊田協定（とよたきょうてい）

～被害をゼロに！「集落ぐるみ」で獣害対策～

侵入防止柵設置で野生獣を寄せ付けない

「集落ぐるみ」で元気に草刈り作業

経　緯

○平成8年頃にイノシシやサルによる農作物被害が集落全体で認められるようになった。
○獣害の影響から営農を諦める者も出て、集落中央部に位置する基盤整備田でも休耕地が発生し始めた。
○平成17年に集落の存続に危機感を抱いた有志数名が、「集落ぐるみでの獣害対策」の実施を非農家も含めた全員に呼びかけた。

取組内容

○集落の周囲約7㎞を囲む野生獣の侵入防止柵を設置し、除草作業等、非農家を含む全戸が維持管理に携わる。
○野生獣の侵入情報を狩猟者へ迅速に伝達することで、捕獲の効率化を図る。
○営農集団を設立して、農作業受託を推進しながら酒米を作付けし、所得向上と地域の特産物作りを目指す。

活動の効果

○平成23年度以降、農作物被害がほとんど認められなくなり、休耕地1.2haを復田。集落内で住民相互のつながりが強まった。
○取り組みが県内外の先進事例となり、多くの自治体等が視察に訪れるようになった。
○非農家を含む全戸が侵入防止柵施工、維持管理に携わる事で関心や責任感を形成。野生獣の侵入情報等の共有化が早まり、効率的な獣害捕獲につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「獣害対策」という共通の関心事によって、話し合い、助け合う集落本来の姿が戻ってきました。これからも「集落ぐるみ」で、魅力ある集落を次世代へ引き継ぐ取組を継続したいと考えています。

さぬき市大川町田面2094-2